

吹奏太郎



- ★ 理事長 巻頭言 「三年生・・・まだやるがありますよ」
栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男…………… 1
- ★ 1. 平成22年度 2010年（第41回）日本吹奏楽指導者クリニック・2010 Japan Band Clinic 概要
2010 Japan Band Clinic に参加して
栃木県立佐野女子高等学校 益子 千里…………… 2
- ★ 2. 第11回東関東選抜吹奏楽大会 6月13日（日）報告
会場 厚木市文化会館 大ホール

第11回東関東選抜吹奏楽大会に参加して
高根沢町立阿久津小学校金管バンド部
ウエストファンファーレ 部長 白鳥 優貴…………… 3
- ★ 3. 地域の吹奏楽を盛り上げる取り組み
平成22年度 7・8月号の「音楽の友社・バンドジャーナル」掲載
栃木県吹奏楽連盟副理事長 研修部長
岩原 篤男（真岡高校）…………… 4
- ★ 4. 講習会・クリニック情報…………… 7
- ★ 5. コンサート情報…………… 7
- ★ 編集後記
栃木県吹奏楽連盟副理事長 広報部長
三橋 英之（作新学院高校）…………… 8

「三年生・・・まだやる必要がありますよ！」

栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男

三年生の皆さん、県吹奏楽コンクールが終わり、夏休みも終わって部活動から引退だと、安心から、気が抜けた生活をしているのではないかと思います。

もちろん、進路のための勉強がありプレッシャーの掛っている時期でもあると思いますが・・・。吹奏楽部で学んだ頑張る精神をこれから活かして勉強に励んでいただきたいものです。一日一日の積み重ねが知識の山となり、希望の進路先に合格するのです。

ところで、吹奏楽連盟の立場として、皆さんにお願いをしたいことがあります。それは、今までに吹奏楽で学んできた、音楽のこと、楽器の音の出し方、係り分担、部活動の精神など、後輩たちに引き継ぎすることを忘れていませんか。このことがしっかり出来ていないと、あなたたちの後輩の部活動は進歩することが遅れてしまいます。

三年生は経験からたくさんの知識を持っています。それを後輩に引き継ぎ、後輩はそれを基にして、早い時点から活動することが出来れば、来年の夏のコンクールで、今年よりも目覚ましい良き成績を取ることが出来ることでしょう。

来年はもっと良い成績を、と後輩に託したことを忘れずに、後輩の面倒を見てください。

そしてもう一つ、自分たちの演奏会。すなわち、校内体育館・校庭の片隅・町内の公民館・大小問わず、どんな形の演奏会であろうとも自分たちで演奏会を開くことを考えてみてください。顧問の先生とよく相談をし、そのことが実現したならば、なお一層仲間と絆が深まり達成感を感じ、音楽の素晴らしさを一層感じることでしよう。より音楽が好きになり、楽器を忘れることなく続けて行く秘訣です。

三年生部員に、一読ありましたならば幸いです。



平成22年度 2010年 (第41回) 日本吹奏楽指導者クリニック 2010 Japan Band Clinic 内容紹介

日時：平成22年5月14日(金)～16日(日) 場所：アクトシティ浜松
内容：小学校から一般・マーチングまで、管楽器活動の総合クリニックです

レパトリー研究講座Ⅰ・Ⅱ

加養浩幸氏、後藤洋氏による解説でモデルバンド(昭和音楽大学、浜松交響吹奏楽団)の演奏による2010年の話題作品を紹介

音楽料理法講座「フレーズの表現」

クリニック委員名誉顧問保科洋氏による、音楽づくりにおけるフレーズの表現についてオーケストラ(千葉県立幕張総合高等学校)の演奏を交えた研修

指揮法講座「音楽を振ってみよう！」

指揮者時任康文氏によるシュトラウス作曲：喜歌劇「こうもり」序曲、ホルスト作曲「吹奏楽のための第二組曲」より鍛冶屋の歌、の楽曲をもとにピアノ2台の演奏による講座

合奏指導法講座「美しいサウンドから輝くサウンドへ～基礎合奏から音楽表現へ～」

田中一宏氏、吉田淳一氏による合奏指導実践講座(協力：石川県中学校選抜吹奏楽団)

ポップス講座「エイトビートからラテンまで」

サクソフォン奏者の織田浩司氏によるジャズやポップスのおしゃれな演奏と楽しいステージの仕立て方(協力：東海大学付属第四高等学校)

特別講座「バンド活動の魅力を語る」

クリニック委員会顧問丸谷明夫氏が、クリニック委員後藤洋氏と共に今後のバンド活動について語る

マーチング講座Ⅰ・Ⅱ「レッツ・トライ・ステージドリル！」

Ⅰ：クリニック委員山崎昌平氏と福島格史氏によるモデルバンド(千葉県立幕張総合高等学校)を使うステージドリルの実践指導

Ⅱ：田中久仁明氏による効果的なドリルデザインの初歩指導

生乃久法氏によるマーチングパーカッションの指導法

小学校指導者講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

Ⅰ：「資料研究」金管バンドの様々な活動で活用できる楽曲の紹介と工夫(協力：浜松プラスバンド)

Ⅱ：「合奏指導法」クリニック委員石田修一氏による合奏指導の実践(協力：浜松市立瑞穂小学校)

Ⅲ：「みんなで語ろう、楽しいバンド活動のために」運営・指導・授業での活用について意見交流

(全日本小学校管楽器教育研究会小学校指導者講座運営委員、石田修一、座間吉弘、水口透)

楽器別講座

・オーボエ講座「オーボエ奏法の都市伝説をあばく～またはそのために～」

東京依成ウインドオーストラオーボエ奏者および副コンサートマスターの宮村和宏氏による講座

・トロンボーン講座「世界的アーティストによるレクチャー&デモンストレーション」

元ジュリアート音楽院教授、リンカーンジャズオーケストラ、ウィントンマルサリスセブレット前メンバー、トロンボーン奏者のワイクリフ・ゴードン氏による講座

鳴るほど楽器学講座(金管楽器編)

管楽器設計者松隈義彦氏が、楽器の歴史や構造を分かりやすく解説

公開リハーサル

東海大学付属第四高等学校によるコンサート直前の様子を公開

初めての指導

・演奏の前に 打楽器のチェック 管楽器のチェック

・初めての指導 フルート クラリネット サックス 金管楽器 打楽器 マーチング 合奏法

オープニング・ウエルカム・イブニング・ファイナルコンサート

CD・DVD・楽譜の展示・販売、楽器の展示や試奏、音楽関係大学や専門学校、出版社や各種団体等のコーナー、相談コーナー、饗宴のコーナー、交流会

※東関東吹奏楽連盟から初めて参加する参加者に対して講習費 ¥25,000 の補助があります

栃木県立佐野女子高等学校 益子 千里

5月14日(金)~16日(日)に浜松市のアクトシティ浜松で行われた 2010 Japan Band Clinicに参加してきました。今回は「Play with Heart ~奏でようこころの響き~」というテーマで、楽器別講座・合奏指導法講座・指揮法講座など様々な講座、全国を代表する学校や団体のコンサート、他に楽譜やCDの展示・販売等、盛りだくさんな内容で行われました。吹奏楽を指導するにあたって、本当に基本的な事柄から専門的なことまで知ることができ、そしてすぐに持ち帰って活用できるものも多く、4回目の参加となりましたがまた新たに沢山のことを学べたと思います。

合奏指導法講座では、チューニングの方法、リズム感をつける練習、音色や音量をそろえる練習、これらをモデルバンドを使って解説していただいたので大変ためになりました。

また、コンサートでは千葉県立幕張総合高校や、航空自衛隊航空中央音楽隊の演奏を聴くことができました。同じ高校生でもこれだけのことができるのかという衝撃、自衛隊の方々の無駄がないすっきりとした演奏、自分自身まだまだやるべきところがたくさんあるなど感じるばかりでした。毎年ゲストや内容が充実しているので、また来年も参加したいと思っています。



第11回東関東選抜吹奏楽大会 6月13日(日) 報告

主催 東関東吹奏楽連盟 主管 神奈川県吹奏楽連盟 会場 厚木市文化会館 大ホール

第11回東関東選抜吹奏楽大会に参加して

高根沢町立西小学校金管バンド部ウエストファンファーレ 部長 白鳥 優貴

これまでの西小の先輩方の活躍の結果、今年の東関東選抜吹奏楽大会に県代表として推薦していただき、大きなステージを経験することができました。他の団体の演奏を聴き、すごくレベルが高いと感じました。自分たちの演奏はというと、色々ミスをしてしまいましたが、力を合わせ精いっぱい頑張りました。

また、この大きな大会に出場できたことをとても嬉しく思っています。今後また僕たちの後輩がこの大会に参加できたら嬉しいです。

次の目標は吹奏楽コンクールです。この大会に参加できたことがコンクールへつながる大きな一歩となったと思います。僕たちの演奏を聴いてくださる皆さんに「感動が伝わる」演奏をしたいと思っています。





3 地域の吹奏楽を盛り上げる取り組み 1

栃木県吹奏楽連盟副理事長 研修部長 岩原 篤男 (真岡高校)

今回、報告する取り組みについては、平成22年度7・8月号の「音楽の友社・バンドジャーナル」で紹介した「芳賀真岡地区吹奏楽支援事業について」である。

はじめに

栃木県の東南に位置する芳賀真岡地区は、吹奏楽においては戦後まもなく県内でも学校中心のスクールバンドが活動されていた。地域活動の一環として、卒業後も市民バンドとしてOBOGが中心となって発展活動している。しかし都市部環境とは違い、少子高齢社会の縮図である田園地帯が広がるこの地区では、特に少子化などの影響や指導者不足などを理由に地域での活動はあまり盛んとはいいがたくなってきているのが現状である。その具体的原因には、第一に地域の学校規模の問題がある。①全校生徒数が100人に満たない学校が多く、普通規模といえる200～300人の学校は、少ない。②放課後の活動規制が強く、活動時間が短い。第二に指導者の問題としては ①小規模校が多いため音楽専門の指導者が少ない、他教科との兼務が多い。又非常勤講師に頼る。校外活動は、外部の講師やボランティアに頼り維持している学校も増えてきている。②現在の流れは、活動を地域にと言うことで生涯学習・社会活動へ移行することが考えられているが、指導者がいない。これら諸問題の中にあって、吹奏楽を指導したいと思っけていても、どのようにやっていけばよいか分からず手をだせずにいる指導者が存在していること、吹奏楽をやりたいと思っけている生徒がいても、指導者がいないなか児童生徒だけでは活動の幅が狭くできない状態や、放課後の活動時間帯の制限など困難な状態があり、これらをどう克服すべきか、少しでも解消できるように考えた。

そこで、今回文化庁主催の「文化芸術による創造のまち・支援事業」「地域文化リーダー（指導者）の育成」に真岡市教育委員会文化課と共に実行委員会を組織し地域活性化の企画を提案した。この1年間試行錯誤でこの勉強会を計画実施したことをこの場を借りて紹介できることは、貴社へ感謝するとともに今後多くの音楽・吹奏楽を愛好する人との横の繋がり、そしてネットワークの広がる一翼になればと思っている。

文化庁への「実施計画書」作成にあたって

実施にあたり実行委員会を結成する段階で、「実施計画書」の提出期日が近づいてしまった。最初は、数人で企画書を作成し、市と県に提出した。結果は、何とか通過でき、ヒヤリングの時に第一に誰のための企画かを明確に打ち出したところが認められたようだ。そして今回の企画は、今できるところから始めて、将来へ繋げるための布石としての計画書である点を強調した。次に実際に動き出すためには、組織作りを第一に考え、下記の点を配慮しながらそしていろいろ関係機関に事前に相談をすることで少しずつ協力が得られた。

- ① 市教育委員会文化課職員に事務処理等で協力依頼（偶然吹奏楽経験者がおり、協力が得られた。）
- ② 小中学校吹奏楽部顧問より協力者選出（各行事などを通して、再々呼びかけた。）
- ③ 地区の吹奏楽連盟の役員との連携（諸行事の日程調整や実働委員として協力を依頼した。）
- ④ 地元の小中学校校長会との連絡調整（各学校の行事優先とし、各学校の部活動へ迷惑を掛けないことを第一にして、今回の活動主旨の理解を得られるよう努力した。又関係職員の派遣や児童生徒の安全対策にも細心の配慮をした危機管理も明確に打ち出した。）
- ⑤ 地元会館関係者並びに業者へ協力要請。（実質的な協力を得られ大変心強かった。）

事業内容の目的は <吹奏楽指導者育成>

- ① 音楽専任顧問教諭（指導者）不在の各学校での活動補助と外部講師（保護者）育成
- ② 高度な音楽的知識や技能を持った人材を育成
- ③ 吹奏楽を中心とした「音楽の街」づくりの推進。 とした。

特に、近年部員数が少なく単独では芸術祭や吹奏楽フェスティバルに参加できない学校が合同で参加してきている。又日常の活動状況も限られた中で行われている現状を踏まえ、今回の支援事業を推し進める

ことで受講者には地域の指導者として、そしてモデルバンド参加児童生徒には各学校のリーダーとして活躍してもらいたいと考えた。実行委員会では、第一に指導者育成を主とし、第二にモデルバンドを組織し、実習を通した吹奏楽普及のための支援事業として（次回紹介する）実施内容をまとめた。実施にあたっての検討事項として、参加者の募集はどのような風を集めるか又呼びかけるか？実施時期や日程は？そして指導講師の絞り込み選定は？この事業で期待する効果や成果は？育成された地域文化リーダーの活用方策は？評価の指標としてどんな事を期待するかなどを課題とした。

予算は、文化庁負担対象経費と市町村等負担経費並びに参加者自己負担をもとに作成し提出した。この予算の約8割は、講師の謝金と旅費であり、残りの2割が会場費・資料・通信連絡費などで、その経費は受益者負担で賄った。今回の予算立てでは、市教育委員会や会館に全面的に協力して頂いたため講習会場等の使用優先では大変助かった。このように少ない予算ではあったが内容の濃いものが計画できたと思っている。この企画は二年間連続して行う予定であったが諸般の事情で、残念ながら今年度は未定となり、文化庁からの補助は見込めない。今後は全て受益者負担の予算立てとならざるを得なくなった。

講習内容に関して

講習のコンセプトは、最終的に「吹奏楽活動の全体像が見えてくるような講習」とし、最初は「初めての本管金管打楽器」として、楽器の基本的なことを改めて実習を通して学び、楽器を初めて持った生徒への助言などが言えるような講習、次に活動の運営方法や吹奏楽作品を取り上げながら各学校の現在持っている悩み等を検討できるよう配慮した講習を企画した。受講生の要望も反映しつつ各講師を選定させて頂きながら、現場で直ちに実践できるようなプログラムを考え各講師と交渉し進めた。

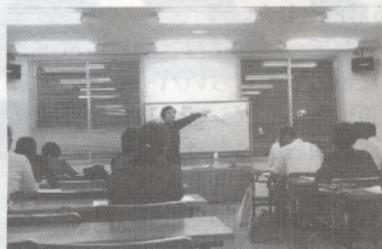
特に吹奏楽の基礎を学んで頂く上で、全国的に活躍している先生方そして第一級のプレイヤーを招聘して受講者の「迷いの解消」を目指した。例えば児童生徒達の前で少しでも不安を持ちながら対応すると子供たちはすぐ見抜いてしまう。自信のもてる指導への第一歩として、第一線で活躍しておられる先生方の生のすばらしい音を鑑賞すること、小学生からプロの奏者まで多種多様な人を対象に培った卓越した指導法や全国の動向を紹介して頂くことなどもお願いした。受講生には本来ならば、東京などへ出向いていかなければならないところ、この地で身近に受講出来る利点を強調した。ただ、やはり日程等が合わず、プログラムにはいろいろ無理は生じた。しかしいろいろ調整した上で勉強会の日程は、土・日曜ではなく主に水曜日（参加者の多くが職員会議の日である、逆に会議の後で出席しやすい日。又会議のため部活動が無い日）の夜に設定した。その結果、多く参加して頂けた。

参加者からは、一流の先生方から直接助言を頂き勉強になり、何でも一言が発見でもあり自分自身に「あっ！」と何かを気づかせてくれた。生徒と面と向かっても気後れせずにはっきり指摘し合うことができた一歩となった。生徒の悪い面ばかり見るのではなく、良い面を伸ばしてあげられるようになった。など感想を寄せてくれた。

講習は、個人やグループプレッソンのようであり、講師の先生方も指導しやすかったとのこと。又快く引き受けて頂いた先生方の個性が大変生かされた講習となった。非常に感謝している。

今回は、地区の小中学校よりモデルバンドを募集した実習会などの体験活動の様子と、講習で得た知識がいかにいかされたかを紹介したいと思う。

指導者講習会のようす



第1回指導者講習会/佐藤 正人先生



第2回指導者講習会/水口 透先生



第3回指導者講習会/関口 仁先生
/海老原栄美先生

地域の吹奏楽を盛り上げる取り組み 2

前回支援事業の概要を紹介したが、今回は「文化芸術による創造のまち・支援事業」「地域文化リーダー(指導者)の育成」吹奏楽指導者の実習とともにモデルバンドの結成と経過そして実習の内容等を紹介したいと思う。・・・(音楽の友社:バンドジャーナル 平成22年8月号)

モデルバンド結成の経緯について

支援事業の実行委員会では、指導者講習の一環としてモデルバンドを組織し実習を通じた研修のためモデルバンドを立ち上げた。又、このバンドは、子供達のためにも一時的な活動ではなく将来を考え、名称を、「ジュニア・アンサンブル・もおか」とした。時期的には、各学校の行事が一段落した頃を見計らって説明会を開き賛同者を募ることにした。この件では、吹奏楽活動のシーズンオフだけでなく、あくまでもコンクールや地区の芸術祭そして学校祭などの行事がぶつからないように個人で参加しやすいように配慮した。モデルバンドの参加対象者に於いては、小学校5・6年と中学校1・2年を第一に考え、中学3年生は受験を控えているので募集はしなかった。高校生には、ボランティアとして協力を仰いだ。この芳賀真岡地区の現状を紹介すると、例えば中学校が17校あるが全ての中学校が全日本吹奏楽連盟のコンクールで言う大編成A部門(50名)には参加できず小編成のB部門(35名以内)に参加している。近年、やっとこの35名編成を維持しつつ部員も少しではあるが増えてきている学校もあるが、まだまだ30名以下は半数以上。20名以下のバンドも少なくない。このような中、大編成のバンド経験ができない児童生徒や、十分な指導が受けられない児童生徒がたくさんいるのが現状である。

募集に際して

実際に募集する段階で、各関係機関に趣旨説明を行いながら協力を得られるよう努力した。方法としては、各学校への案内だけでなく新聞や市の広報やそして市のホームページなどを利用して募集を公開した。又保護者や、各学校管理職、各学校担当顧問、そしてこの地区行政関係者など機会あることに説明会を開催し趣旨説明をした。最初は保護者並びに参加希望者対象に、一般公開の説明会を実施したが参加者が少なく前途多難であった。この事前説明会では、活動内容が充実している点以外にも、特に子供たちの安全面について最大の配慮をしていると言うことを前面に出した。具体的には、保護者の見学可として「入場パス」の発行や送り迎えの徹底や当番制で受付などの協力依頼、そして最悪の事態を考えて、スポーツ安全保険(財団法人スポーツ安全協会)などに入会する点を提示した。

活動の様子

募集人員については、各楽器のバランスがどのようになるか不安があった。初めに募集したところバランスが悪ければオーディションをして選考しなければと思っていたのだが、蓋をあけるとそれなりに集まってくれた。不思議と年齢のバランスや楽器についての不安は、解消された。

次に活動を始める前に、一番の悩みは「打楽器をどこから借用するか」であった。この件については、ある学校が積極的に手をあげてくれた。この学校から数人がこの活動に希望していたので、部顧問のご理解と部内で話し合いの結果、全面的に協力していただけることになった。打楽器の運搬については、会からの補助を行うことで了承を得られた。

練習場所は、市の市民会館や公民館又は近隣の小中学校などを借用する計画とした。

練習内容は、各学校などの部活動と同じく組織作り、まず自己紹介を兼ねてパート練習と共に各パートリーダーや全体の代表者選出。そして練習では、高校生のボランティアに協力してもらいパート練習・基礎合奏などを行った。次に各パートレッスンは、音楽大学生に協力して頂いた。セクション練習では、プロの一流の先生方にポイントを絞った練習を実践して頂いた。今回の実践の報告会における選曲は、地元の先生方の演奏したい曲と最後のまとめとして指揮をお願いした加養浩幸先生(東京音楽大学)にアドバイスを頂いた。子供たちは、毎回毎回楽しそうに参加していた。感想としては、いろいろな先生方に指導して頂き為になったとか、高校のお兄さん達と一緒に吹けておもしろかった。また、違った学校の人や年齢の違った人と吹けて、次にまた合奏できる日が楽しみになった。など私達のこのプロジェクトの目的は、達成できたと思う。ただこの年は、インフルエンザが大流行していたため、本当に最後の最後まで企画行事として演奏を披露できるのか実行委員会としては、不安の連続であった。

発表会の当日

いろいろと準備不足はあったが、子供たちも前日のリハーサルから休憩も惜しんで真剣に取り組み、練習にも熱が入った。前日も当日も休みが一人もなく68名全員が本番のこの日を迎えられた。

当日、真岡市長や県会議員の挨拶に始まり、第一部一曲目はフローレンティナー行進曲。そして各パートリーダーの楽しく趣向をこらした楽器紹介は、保護者達は目を細めて鑑賞していた。次にスウェアリンジェン作曲の「喜びの音楽を奏でて」と演奏は進んだ。第二部として、吹奏楽指導者講習会の受講生による報告発表は、真岡中学校の高松明子先生による「ディズニー・マジック・キングダム」そして市貝小学校の野田純子先生による「大きな古時計」が演奏された。二人の先生方もこの大編成のバンド指導は、初めてで大変勉強になったようだ。最後は、コーデル作曲「吹奏楽のための民話」である。この曲は、地元先生方の思い出の曲であり、吹奏楽のオリジナル作品としても優れた作品である。演奏は当日の最後を飾る盛り上がり子供たちの生き生きとしたフレッシュさが会場全体に鳴り響き涉った。アンコールは、会場の人達とバンドの伴奏で「ふるさと」が歌われ満場の拍手で会を閉じた。保護者達からは、次年度の新たなバンド活動への期待が寄せられた。

今後の展望について

文化庁の支援事業に、手をあげ実行委員会を組織し何とか試行錯誤ではあったが1年が経過した。もっともっとやるべき事は有るように思うが残念ながら予算がつかない。でも、この1年で立ち上げた勉強会は短い期間ではあったが大変勉強になった。これを機会に地域で吹奏楽を少しでも活性化できるよう各先生方と共に地道に形を変えてでも勉強会活動を続けたいと考えている。又、モデルバンドの「ジュニア・アンサンブル・もおか」に至っては、要望が多く継続していく予定である。手探りではあるが、県の「文化振興基金助成事業」などがあるように聞いている。できれば積極的に働きかけてみたいと思っている。吹奏楽指導者の担い手育成と共に吹奏楽をやりたいと思う子供たちのためにも続けていきたい。

モデルバンド練習（実習会）のようす



第1, 3回モデルバンド練習/谷村絵美子先生, 他8名、第2, 6, 7回モデルバンド練習/岩原篤男先生, 海老澤栄美先生



第4回/加養浩幸先生、第5回/松沢増保先生、水口透先生、染谷太郎先生、第8, 9, 10回/加養浩幸先生



4 講習会・クリニック情報

① 栃木県吹奏楽講習会

日程：平成23年3月19日（土）・20日（日）

会場：宇都宮市文化会館

モデルバンド 柏市立柏高等学校吹奏楽部 指導 石田 修一 氏

楽器別講師 有名プレーヤーに交渉中

昨年度の指導いただいた主な講師

内山 洋(クラリネット) 久保 義一(トランペット) 平子 久江(パーカッション)

小学校指導者講師 人選中

詳細は後日発表



5 コンサート情報

作新学院吹奏楽部 第45回定期演奏会

平成22年10月16日（土） 13時30分開演 栃木県総合文化センター・メインホール

入場料 前売り・大人¥800- 高校生以下¥500- 当日券は各¥200-増

演奏曲目：ラッキー・ドラゴン～第五福竜丸の記憶・2010ニュー・サンス・イン・ブラスより・ステージ・ドリル他

問い合わせ先 吹奏楽部090-3318-6826 平日16時～19時 休日9時～19時

宇都宮市立緑ヶ丘小学校吹奏楽部 「メモリー・コンサート2010」

平成22年12月19日（日） 13時開演 緑ヶ丘小学校体育館 入場無料

演奏曲目：スコットランドの旋律「ビスガ」による変奏曲・「龍馬伝」のテーマ・トラブルメーカー他

宇都宮市立姿川第一小学校吹奏楽部「ニューイヤー・ドリーム・コンサート2011」

平成23年1月15日（土） 13時30分開演 宇都宮市文化会館小ホール 入場無料

演奏曲目：「マジスティア」序曲・「龍馬伝」のテーマ・モンスター他

編集後記

猛暑の夏がようやく過ぎ、早いもので平成22年度のコンクールも東日本学校吹奏楽コンクールと全日本吹奏楽コンクールを残すのみとなりました。

今年の第52回栃木県吹奏楽コンクールでは、ずいぶん多くの団体の演奏を聞かせていただきました。さすがに長い期間練習をした成果が随所に見て取れました。大変参考になりましたが、反面少しばかりの不安を感じたのは私だけでしょうか。といいますのは、私は必ず他県の吹奏楽コンクールや東関東大会などの支部大会を聞きに行きます。また、今年全日本吹奏楽コンクールも普門館に聞きに行こうと考えており、数多くの団体を聞く機会を設けています。本県の実情を客観的に判断することができるのです。残念ながら、栃木県のバンドはこれから先大丈夫だろうかと感じてしまったのです。つまり、本県の演奏と他県を比較したときに、ちょっとばかり後れをとっているのではないかと感じてしまったのです。いろいろな要因が考えられますが、ここのところ繰り返して申し上げてきたとおり、指導する側のスタンスが大きく影響しているのではないかと思います。校務に忙殺され、時間的制約がある中で、できる限り子供たちと向き合っているにもかかわらず、なかなか満足いく演奏ができていないといったところでしょうか。でも、指導に飢えている、がんばっている子供たちが練習場で待っているのです。残りの期間を存分に子供たちと向き合っていると願っています。

さて、そろそろ最上級生が引退し、世代交代の時期かと思えます。より一人一人に目が行き届くはずですよ。たとえば、JBCのバンドスタディを使って、奏法のチェックから個々の技術を底上げし、B♭のユニゾンの合奏を少し工夫して、サウンド作りをしてみたいかがですか。（いくらでも、私が伝授いたしますよ。）

広報部長 三橋英之（作新学院高校）